

# AJU 愛光園だより

～私たちは、誰もが人間としての尊厳が保たれ、安心して共に生きる社会をめざします～



編集者：社会福祉法人 愛光園  
本部事務局 愛知県知多郡東浦町緒川東米田3 3 3番3  
TEL 0562-83-9835 FAX 0562-83-4344  
URL <http://www.aikouen.jp/> E-mail [honbu@aikouen.jp](mailto:honbu@aikouen.jp)

第117号

## いのちの有期限性を意識して

本部長 桑山利和



あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。正月早々縁起でもないと言われるかもしれませんが、一休さんは「門松は 冥土の旅の一里塚 めでたくもありめでたくもなし」という句をうたっています。「正月だ、めでたいと言っているけれども、人生は死への旅路であり、新年を迎えたことは、1年無事過ごせめでたいことではあるが、1年また死に近づいたということでもありますよ、浮かれている場合ではないですよ」と警鐘を鳴らしています。人生は死に向かったの旅とはかなり強烈です。

また、ホスピスや緩和ケアの先駆者である金城学院大学学長の柏木哲夫さんは、「人はみな死を背負っている」とおっしゃっています。死が遠い先にあって死に向かって近づいて行ったり死が近づいて来ると感じている人が多いが、実際は生と死はとても身近にあり、「生」という表と「死」という裏からなる紙のようなものである。ある時ふっと風が吹いたら簡単に紙が裏返しになる。そんなふうに譬えています。一休さんよりも厳しいですね。ですから柏木さんは、「起こるか起こらないかわからない火事のために定期的に防災訓練をしているのに、必ず来る死に対して普段考えることが少ない。結婚記念日に夫婦でガンや死について考えよう」と提唱されています。

確かに終わりを意識することにより今の大切さを意識できます。自分の経験でも、学生時代の夏休みに、夏休みがまだまだ長いと思っていると、だら

だらと過ごしてしまい、お盆を過ぎた頃から焦りだしたものです。しかし、期間を意識して「やりたいこと」「やらなければならないこと」を列記して計画的に取り組んだときにはいろいろなことができたものです。

ましてや、人生はいつ終わりが来るかわかりません。もしかすると今日が最後になるかもしれません。一生懸命苦勞して働いて定年になり、これから温泉旅行でもして楽しもうと思った矢先に自分が病気になった、あるいは配偶者の方が倒れてできなくなったという人が少なくないそうです。これを柏木さんは「矢先症候群」と呼んで、忙しくてもしたいことは先にしておいた方がよいとアドバイスされています。今という瞬間を大切に生きていきたいと思います。

更に介護・支援に携わっている私たちは、利用者の方々との一瞬一瞬の関わりも同様に貴重です。支援者自身が明日どうなるかわからない上、利用者の方々も明日も今日と同じ状態でいらっしゃるか分からないからです。

日々の支援の中では現在の状態が長く永遠に続くと感じてしまい、忙しさも相まって、つついぞんざいな対応になってしまいがちです。後になって、あの時ああしておけば良かった、なぜこの時このようにしなかったのだろうと後悔しては取り返しがつきません。

かけがえのないいのちと向き合っていることを意識して、その輝きに少しでも彩りを添えることができるよう支援を続けていきたいと思います。

# 障がい者活動センター 愛光園の20年

施設長 多田 真



昭和の18年間を肢体不自由児通園施設として歴史を重ねてきた愛光園が、平成の始まりと共に成人の方たちの日中活動の場となってから、20年の歳月が経過しました。

どこにも行き場のなかった重い障がいを持った子どもたちの療育の場の実現にはじまり、養護学校の義務制によりその子らが教育の場に巣立ち、そして、卒後に生き生きと通うことのできる通所の場が求められ、その声に応じて愛光園が変貌を遂げてきたことは、あたり前といえどもあたりまえの流れといえるのですが、大都市圏でもない地方でこのことが綿々と継続できていることは、奇跡に近い軌跡であると考えられます。

そこには、創設以来の深遠な理念と「ないものは無い。しかし、必要であれば創り出せばよい。必要なものは与えられる。」という、楽天的に見えて実は、それでなければ激流を渡って行くことができなかつた絶妙の事業運営と実践スタイルが存在してきたことに、最近気付かされる機会が一層増えています。

さて、成人通所である障がい者活動センターとしての愛光園の軌跡をたどれば、はじめは最重度と呼ばれる仲間たち(利用者)が主でありながら、制度上彼らが通うに適した施設種別はなく、まずは知的障害者更生施設(通所)という仮の姿でスタートして...と思いきや、気が付いてみれば18年半という長きにわたり事業継続してきました。「医療もない知的障がい者施設で、重症者を受けとめることは無理・無茶。」と言われた時代から、これが必ずや仲間たちの普通であたりまえの暮らしに繋がっていく道であると信じて支援して行くことができたのは、日々目を輝かせながら、精一杯楽しく生きようと通ってくる仲間たちの姿に、周囲の者たちの心がつき動かされて来たからに他なりません。そして、愛光園の地道な草の根の実践だけで国が動いたわけではありませんが、全国の志を同じくする方々と力を合わせることによって、重症心身障害児者通園事業が全国に普及し、ホームでの暮らしが制度的にも認められ、利用できる支援の裾野が徐々に拡大していることは紛れもない事実ではないかと思えます。



旧愛光園の手作り看板

さて、ここ数年の愛光園は、正に激変の時代を迎えています。障害者自立支援法の施行に伴い、平成18年10月に新体系に移行して障害福祉サービス事業所(生活介護)となりました。平成20年5月には、慣れ親しんだ大府市共和の地を離れ、お隣の東浦町ひかりのさと地内に移転改築して仲間入りしました。そして、やっと落ち着くかに見えた障がい者福祉制度が、政権交代によりまた一から見直されようとしています。さらに、変化は制度や外部からだけではなく、内からのものも顕在化しています。20年という歳月を経て、仲間や親御さんも歳を重ね、新たなステージに向かう対応が望まれていることをひしひしと感じる今日この頃です。「一人ひとりの力は微力でも、心をひとつにして立ち向かえば必ず何かなる。」短くはない法人の歴史の中で、我々はそれを学んできたはずで、転換期をむかえた今こそ、歩んできた道を今一度確かめて、本当に必要な次の一手を打たねばと考えています。

この原稿を書いているうちに、たくさんの人の顔を思い浮かべていました。どの方も影になり日向になり愛光園を支えてくださった方たちです。こんなにも多くの人たちと心を繋いできた仲間たちの人間力に改めて驚くとともに、発展途上の我々に惜しみなく支援の手を差し伸べて下さったみな様に感謝の気持ちでいっぱいです。試行錯誤を繰り返しながら仲間たちと一緒に泣いたり笑ったり、人間臭さたっぷりの障がい者活動センター愛光園ですが、これからもどうぞよろしくお願いたします。

障がい者活動センター愛光園 20周年記念 および  
第5回 社会福祉法人愛光園 実践発表会のご案内

多くの皆様のご支援に感謝を込めて、今年も実践発表会を開催させていただきます。

さて、第5回目となります社会福祉法人愛光園の実践発表会ですが、今回は、午前障がい者活動センター愛光園の20周年記念を執り行った後の、同日午後開催する運びとなりました。

先回までは、自由テーマで法人内各事業所からそれぞれ1題を持ち寄ってという発表会の形式をとってまいりましたが、5回目にあたり今回は若干趣向を変えて、テーマ『地域でともに生きる』を設定した上で、他機関や法人内各事業所との連携により地域生活を支える仕組みを構築してきた過程と、その現状と課題について、3題の実践発表を予定しております。

個別のニーズに基づく支援の実際について皆様にお伝えすると共に、忌憚のないご意見やご質問をいただき、さらなる実践の質的向上に生かして行く所存です。

どうぞ、日時・場所等お間違えなく、多数のご参加をお願い申し上げます。

記

日時：2010年2月13日(土) 10:00~16:00

場所：あいち健康の森 プラザホール 定員300名(参加費無料)

主催：社会福祉法人愛光園、ひかりのさとの会

昼食予約承ります。1食800円(お茶付) 予約〆切2010年1月31日(日)

昼食申込先：社会福祉法人愛光園 本部 FAX 0562-83-4344(別紙申込用紙ご利用下さい)

第 部

10:00~12:30

障がい者活動センター愛光園20周年記念

対談：『未来への伝言』

詳細については、本紙4ページ

第 部

13:30~16:00

発表会の概要

各発表時間は1題20分。質疑応答を含め30分間といたします。

実践発表 障がい児童部門

大府市発達支援センター おひさま

「保育園への移行支援 Aちゃんの事例を通して」 東千恵子

実践発表 障がい成人部門

地域居住サポートセンター

知多地域障害者生活支援センター らいふ

障害福祉サービス事業所(生活介護+就労移行支援) ひかりのさとファーム

「みんなで考える、みんなで支える」~Mさんのパーソナリティに学ぶ~ 久木崎裕二

実践発表 障がい高齢部門

地域居住サポートセンター

介護老人保健施設 相生

「障がいのある方の高齢化・重度化にともなう地域生活支援について」 奥田将之

まとめと講評

上田 晴男 氏(社会福祉法人愛光園 スーパーバイザー)

今年度は、法人内の事業所が地域における連携をもとに、ライフステージごとの(共同)発表を致します。

問い合わせ:社会福祉法人愛光園 本部 0562-83-9835(担当:桑山)



## 障がい者活動センター愛光園 20周年記念

# 対談：『未来への伝言』

～ずーっとみんなが地域でともにくらしていけるように～



日浦 美智江 氏

社会福祉法人訪問の家理事長  
社会福祉法人十愛療育会理事長  
元『朋』施設長  
ヤマト福祉財団賞、糸賀一雄記念賞  
横浜文化賞 その他受賞多数  
日本の重症者地域福祉の先駆者・第一人者



廣瀬 治代 氏

社会福祉法人愛光園理事  
前『愛光園』施設長  
中部地区を中心に、現場指導・  
相談・ボランティアに飛び回る  
毎日  
愛光園のこころの拠り所



2010年2月13日(土) 10:00～12:30  
あいち健康の森 プラザホール (定員300名 参加無料)

「みんなで通う場がついにできた！」うれしそうな仲間の顔・顔・顔。あれから20年という歳月が経ちました。

変わらないことに怒りさえ覚えていた前半の10年の後にやってきたのは、支軸を失ったかのような激動の10年でした。それでも、仲間たちは笑顔を絶やすことなく、精一杯毎日を楽しみながら暮らしています。このいとなみが途切れることなく、さらなる発展をとげていく為に、今私たちが成すべきこと、大切にしなければならないことは何なのか。この節目の時にもう一度原点に立ち返り、先駆者たちが歩んできた道すじをしっかりとそれぞれの胸に刻み込んだ上で、愛光園も仲間たちも新たなステージに向けて再始動するべき時が来たと感じています。

そこで、我々がいつも目標にしてきた横浜『朋』の創設者日浦美智江氏と、障がい者活動センターとしての愛光園の育て親である廣瀬治代氏にご登壇いただき、積み重ねられてきた熱い思いを源泉に、忘れてはならない未来に向けてのメッセージをこめて、ぜひこの機会に今一度語っていただきたいと切望し、今回の対談が叶いました。

なお、お2人の対談に先立ち、非常に僭越ながら障がい者活動センター愛光園の現況をお伝えすべく、実践発表2題を予定しております。

♡♡ 多くの皆様のご参加をお待ちしています ♡♡

尚、新型インフルエンザの流行状況や天候等により、内容・会場の変更や中止もあり得ますので予めご了承ください。

【お問い合わせ】 障がい者活動センター 愛光園 TEL0562-84-8307

## わいわいハウスの体験利用がスタートしました

愛光園地域居住サポートセンター 清水 晶

「あなたは将来どこでどんな暮らしがしたいですか」って聞かれても、どこにどんな暮らしがあるのか知らないと、想像するのも難しい。でも、お試しでも体験できたらイメージも膨らむし、もしかすると違う選択肢も出てくるかもしれない。そんなお試しを実現するのが体験利用という制度で、入居先は大府市追分町の「わいわいハウス」というケアホームです。

ついにH21年10月20日、のぞみの家の古橋さん、山下さん、土井さん、村島さんが先頭をきって、体験利用を利用されました。この4名の方は、1年以上も前から本部隣のそよ風で宿泊体験を重ねられてきました。その経験を生かして地域の中での第一歩を踏み出したこととなります。その他にもグループホーム・ケアホームセンター、のぞみの家、りんく、地域居住サポートセンターの事業所間で、昨年度から、話し合い、顔合わせ、ホーム見学、環境整備、申請手続き、のぞみの家への実習などなどの準備を数知れず重ねてきました。

では、その記念すべき2日間のホームでの様子を、のぞみの家の倉科さんが臨場感あふれる文章でまとめて下さいましたので、ここに一部を紹介します！



おかわり～

初めて泊るのに、玄関で「ただいま～」と言ってしまいうわいっわいハウス。お家に着いたらホッと一息コーヒータン。飲めない古橋さんは、なっちゃんオレンジ。村島さんは、いつも手放せないビニールボールを持っていなくても

今日は大丈夫。すっかり落ち着いています。みんながそばにいるからなのかな。それに対して土井さんは、お風呂の場所、トイレの場所、景色のいい場



手紙きたかな？

所、探索しつつ確認しつつ、かなりうろうろ。そうしているうちにお風呂にお湯を張って・・・。

1日目は、みなさんなかなか深く眠れなかった様ですが、その疲れと、ちょっと慣れたのとで、2日目は平和な夜でした。翌朝は、土井さんがAM5:20頃トイレのため起床。のぞみの家ではいつも4時台なので、いいほうです。古橋さん、村島さんは、AM7:20まで寝ていて、みなさん充電完了です。朝ごはんは、宿泊職員が作るのので、一足早く起きた山下さんと、朝ごはんのおにぎり作り。ほんと、山下さんは何でもできます。



おにぎりニギニギ

今年度はスタッフ体制が不十分なため、各事業所から夜勤者を出していただけるようお願いしています。環境面でも、初日は床暖房がつかないなどのトラブルもありみなさまには大変ご迷惑をおかけしました。しかし、改善できるところは改善し、利用して下さる方に、より安心してつろいでいただけるホームにしていきたいと思っていますので、ご理解ご協力の程よろしくお願い致します。



2日目の夕食風景



## 地域の中の

### 高齢者グループホーム

もくせいの家 管理者  
深見 重夫

今年度から、2室増室し定員が16名から18名になりました。また、入居されて5年以上経過した3名の方(94歳・93歳・92歳)が身体的な理由等で退居されました。そして、新しい方をお迎えしています。一人の方は時として「何でこんなところに私を閉じ込めるの」「あなたたちに何の権利があるの」「あなたね、いいお仕事しているつもりかもしれないけど、年寄りを泣かす仕事をしているんだからろくなことはないのよ」「この社長を出しなさい」と詰め寄られます。私も含めて職員はたじたじです。この方の頭の中では何が起きているのでしょうか。ある研修会で、認知症の人が施設に入ったときはどういう状態なのかという話がありました。「自分が拉致されて、行ったことも見たこともない施設に連れて行かれたことを想像してみてください。あなただったら、そのときどんな状態になっていますか」と問われました。そして、「あなたは気が狂ったように暴れたりしませんか。落胆して泣いたりしませんか。なんとか隙を見つけて逃げ出そうとませんか」と投げかけられました。認知症は残念ながら脳が壊れていく病気です。10分前のことも記憶に残っていません。ここは自分の住んでいた家ではないという思いが広がった彼女が、怒鳴るのも、暴れてしまうのも、心情を考えればやむを得ないことなのだと思います。というより、彼女が言っていることは「人として正論」だと受け止めることがとても大事だと言えます。「訳のわからんところに入れられた」と思っている彼女に、「ここに居てもいいんだな」と思わせ



る関わりを丁寧に積み上げた結果、「ここに居てやるか」と折り合いをつけていただく日を目指していきたいと思います。

話は変わりますが、名古屋で全国認知症グループホーム大会が開かれました。そこで、「下町商店街に越してきた“放火魔”たち」と揶揄されていたグループホームが「地域との壁」を乗り越えていく話、「名古屋めし=小倉トースト」をコンセプトにした喫茶店を併設した施設の話など、元気でひたむきな歩みを伺いました。地域によっては、さびれていく商店街、人口過疎地域、コミュニティ活動は高齢者のみが担っている町それぞれ様々ですが、「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」の火種を灯し続ける活動に勇気づけられました。



認知症が、ある意味社会現象のように関心を集めています。テレビや新聞、雑誌などで連日関連の番組・記事が発信されています。地域レベルの取り組みも行われるようになり、認知症サポーター養成研修の場で私がお話しさせていただく場面もあります。先日も、私が住む町で徘徊する認知症高齢者を地域の協力で保護する訓練が行われていました。このように書くと、私も地域住民の一人として、関心を持って何らかの参加をしたように聞こえますが、実態はそうではありませんでした。たまたま、自転車で駅に向かう途中、知り合いの地域包括支援センターの方が街角に立ってみえたので、お声をかけたところ、「訓練中」だということがわかったのです。「深見さん、回覧板を読んでませんね」と言われてしまいました。「地域が大事」と言いつつ「地元の地域活動をしていない」自分の落差に改めて気が付きました。反省しつつ、やはり私自身が認知症になっても、できるだけ地域で生活し続けることができるよう努めていきたくて思いました。

東浦町西部中学校の生徒さん(運動部の部活動の仲間たち)

# 約100名の若いボランティア大活躍

12月19日(土)、ボランティアとしてひかりのさとのおみの家・まどか・ひかりのさとファームに各20人程度、相生に40人程度の合わせて約100名の生徒さんと、教頭先生はじめ9名の先生方にもお越しいただきました。当日は朝9時集合で、雪が時々舞い散る天候となり心配しましたが、無事に行うことができました。凍てつく寒さの中、みなさんが頑張って作業をしていただきました。



朝一番、みんなそろって打ち合わせ・・・。



ひかりのさとファームでは、えごま油を柱や机など木製部分に塗布作業

さすが運動部らしく声を掛け合いながら、たっぷり1時間程度お手伝いいただきました



相生では、窓ふき中庭の掃除とスリッパみがき



ひかりのさとのおみの家・まどかでは、窓ふきと草取り側溝の掃除



参加してくれた生徒さんたちは、小学校の頃からふれあい授業や福祉実践教室などで交流があります。現在インフルエンザが流行していることもあって、今回は利用者と接する機会は設けず、お掃除が中心でした。これからは、お掃除だけでなく、いろいろな形で交流を保ち、福祉への理解・関心を深めていただければと思います。ご苦労様でした。

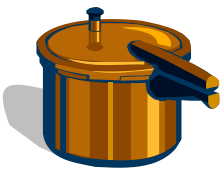


## 食事サービスセンターからの発信

ひかりのさとのおもみの家  
栄養士 稲坂 彩

「新米をいただきます!」

10月に「あいのう」さん(安全な食材を提供してくれる業者)に今年の新米を納品してもらいました。あいのう米は、アキタコマチ、コシヒカリ、ヒトメボレをブレンドし精米したもので、有機肥料をたっぷり使い出穂後には農薬を使用していないそうです。11月には、「明農会」さんの新米も届きました。こちらは、こだわりの自然農法で育てられた自然米です。



食事サービスセンターではお米を圧力鍋で炊いています。そのため、日々厨房のガス台では圧力鍋がフル回転です。圧力鍋でお米を炊くと、短時間でも

ちりと仕上がります。

~圧力鍋でのお米の炊き方~

圧がかかりおもりが回り出すまで、強火で加熱します。

おもりの回り具合を調節しながら弱火で15分加熱します。(圧力鍋により調整が必要)

火を止めて20分放置して圧を抜きます。おいしい玄米ご飯のでき上がりです。

もう1つのこだわりが「おひつ」です。もう使うご家庭も少なくなっていますが、「おひつ」の良い点は、余分な水分を適度にとってくれることです。これでごはんがぐーんと美味しくなります。



ところで、食事サービスセンターは基本的にはご飯は玄米でお出ししていますが、5分づき米でお出しすることもあります。健康状況や身体状況に合わせていただくためです。この場合はセンター内で搗きを調節できる精米機で精米して、搗きたてのものを使用します。精米後に劣化することはありません。お米の命をありがたくいただくためにはあたりまえの手間です。

つづきをお楽しみに・・・



今年も  
イオンサタが  
やってきた!

12月21日に、イオン社会福祉基金(イオンの労使による毎月50円 労使双方で100円 の積立金で運営されています。)



### ひかりのさと案内図

JR東海道線大府駅下車、タクシー(15分)が便利です

